

令和9(2027)年度都立文化施設の展覧会・公演ラインアップ(第1弾)

令和9年度の見どころをいち早くご紹介します

公益財団法人東京都歴史文化財団は、各都立文化施設の特色を生かした展覧会・公演を開催しています。この度、令和9年度に開催予定の展覧会・公演の第1弾ラインアップが決定いたしましたので、お知らせいたします。

レンブラントからモネ、ゴッホ ハマー美術館展やソ・ドホ展など、多彩なラインアップ

令和9年度も都立文化施設では、江戸の食をたどる展覧会「江戸メシ探訪」や巨匠の名画が一堂に会する「レンブラントからモネ、ゴッホ ハマー美術館展」、そしてアジアの現代美術作家「ソ・ドホ展」など、幅広いジャンルでの展覧会を多数予定しています。また公演等については、新人若手音楽家の登竜門「東京音楽コンクール」や近年ますます人気の「オルガン・ア・ラ・カルト」を予定しています。

その他のラインアップは、第2弾発表(1月下旬予定)でお知らせします。ぜひご期待ください。

※本リリースで紹介している事業の詳細は、財団ウェブサイトをご覧ください。<https://www.rekibun.or.jp>

東京都江戸東京博物館

特別展「江戸メシ探訪」

2027年7月17日～9月20日

江戸の「うまい!」をたどる旅
人々が親しんだ食の先に広がる、
江戸の暮らしと文化



《久留米藩士 江戸勤番長屋絵巻(粉本)》(部分図) 戸田熊次郎/序
三谷勝波/画 明治期 19世紀 東京都江戸東京博物館蔵

東京都美術館

レンブラントからモネ、ゴッホ ハマー美術館展

2027年9月11日～12月12日

誰もが知る巨匠たちの名画が一堂に



レンブラント・ハルメンスゾーン・ファン・レイン《ユノ》
1662-1665年頃 油彩/カンヴァス ハマー美術館蔵

東京都庭園美術館

ルネ・ラリック展

2027年7月3日～9月12日

天才・ラリックの軌跡
信念を貫き、時代を拓く



ルネ・ラリック 常夜灯《二羽の孔雀》1920年
東京都庭園美術館蔵

東京都写真美術館

石川直樹

2027年7月10日～9月20日

**8000m超14座登頂！
未知との出会い、その軌跡**



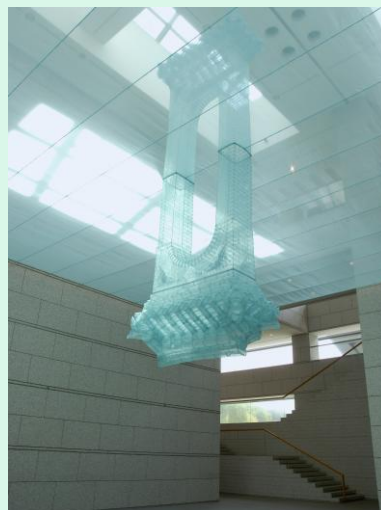
【参考図版】石川直樹《K2-Broad Peak #093》〈K2〉より
2022年 発色現像方式印画
東京都写真美術館蔵

東京都現代美術館

ソ・ドホ展（仮称）

2027年6月19日～9月26日

**世界が注目する韓国出身の作家、
国内過去最大の個展**



【参考図版】ソ・ドホ《リフレクション》
2004/2007年、東京都現代美術館蔵
撮影：上野則宏 ©Do Ho Suh

東京文化会館

第25回東京音楽コンクール

2027年8月19日 ほか

**第25回を迎える新人若手音楽家の
発掘を目的としたコンクール。
来年度は弦楽、木管、声楽部門を実施。**

大規模改修工事のため、令和8年5月7日～令和10年度中（予定）の
期間は休館しています。休館中も、都内施設で各事業を継続！



第24回東京音楽コンクール 本選 弦楽部門
©堀田力丸

東京芸術劇場

オルガン・ア・ラ・カルト

（オルガン・リサイタル、ナイトタイム・
コンサート、ランチタイム・コンサート、
オルガン講座）通年

**世界最大級の規模を誇る
回転式パイプオルガンで楽しむ
多彩なコンサート**



東京芸術劇場 コンサートホールのパイプオルガン
©Hikaru.☆

お問い合わせ

公益財団法人東京都歴史文化財団 総務課 早乙女・野田

TEL:03-6256-9070

アーツカウンシル東京 企画部 広報課 関次・柳生

TEL:03-6256-9967

WEB: <https://www.rekibun.or.jp/>

※個別の事業につきましては、別紙に記載の各施設の担当者までお問い合わせください。

東京都江戸東京博物館

※太枠は本プレスリリースの表紙に掲載している事業です。

事業名	会期	概要
江戸東京博物館リニューアル記念特別展「江戸オシャレ」	2027年2月13日～4月4日	江戸後期、都市・江戸で花開いた「粋」な装い。その背景を振り返りながら、装うことの楽しみを現代の視点で捉え直してみます。最新研究を取り入れながら、当館が所蔵する優品や初出品の資料などを展示。複製資料による着装展示、紺屋の作業風景を再現した模型、生地の手触り展示など、多彩な体験をお楽しみいただきます。着物や型染の面白さ、楽しさなど、「江戸のオシャレ」をご堪能ください。
特別展「歌川国芳 奇才絵師の魔力」	2027年4月23日～6月27日	江戸時代後期に活躍した浮世絵師・歌川国芳は、奇抜なアイデアやデザインセンスでそれまでの浮世絵の歴史を塗り替える斬新な作品を生み出しました。本展では、その人気に火を付けた武者絵から、美人画、風景画、戯画や肉筆画など、あらゆるジャンルの作品を手がけた画業を紹介し、奇才絵師と称された国芳の魅力を発信します。
特別展「江戸メシ探訪」	2027年7月17日～9月20日	都市・江戸では、参勤交代などによる人的交流と、「江戸前」の産物や全国から集まる多彩な食材を背景に、現代へとつながる豊かな食文化が育まれました。本展では、『酒井伴四郎日記』をはじめとする当時の記録から、武士や町人の日々の食卓、食材が行き交う市場、料理茶屋や行楽先での外食、酒宴の様子を紹介します。江戸の食をめぐる人と物の動きをたどりながら、日々の暮らしと、食を楽しむ都市文化の広がりを紐解きます。

東京都江戸東京博物館

事業名	会期	概要
NHK大河ドラマ特別展 「逆賊の幕臣」	2027年10月9日～ 12月5日	2027年（令和9年）に放送するNHKの大河ドラマ「逆賊の幕臣」と連動した展覧会です。主人公・小栗上野介忠順の生涯と、彼が生きた幕末期を、ゆかりの作品や歴史資料をとおしで紹介します。幕府の財政改革や外交、軍制整備に携わり、横須賀製鉄所の建設など日本の近代化に貢献した小栗の足跡をたどります。

※この内容は2026年10月9日現在のものです。事業内容は変更する場合がございます。
詳細は東京都江戸東京博物館 広報担当までお問い合わせください。

お問い合わせ

東京都江戸東京博物館
〒130-0015 墨田区横網1-4-1
TEL: 03-3626-9974 / WEB: <https://www.edo-tokyo-museum.or.jp>
【開館時間】9:30～17:30（土曜日: 9:30～19:30）
【休館日】月曜日（祝休日の場合は開館、翌平日休館）、年末年始

※最新情報は、公式ウェブサイトでご確認ください。

東京都美術館

※太枠は本プレスリリースの表紙に掲載している事業です。

事業名	会期	概要
デュフィ展	2027年4月24日～ 8月22日	ラウル・デュフィ（1877－1953）は、20世紀フランスを代表する、「色と光」の画家です。本展は作家の生誕150周年を記念し、パリ市立近代美術館の所蔵品を中心に、絵画だけでなく、本の挿絵、衣装、テキスタイル、家具、陶器の装飾など約150点によって、デュフィの総合的な芸術を紹介します。1937年パリ万国博覧会で、電気と光のパビリオンのために制作された大壁画《電気の精》は、装飾芸術の最高峰の一つとも称されていますが、本展では、その原型油彩画と素描のほか、没入型映像でその魅力をお伝えします。
都美セクション グループ展 2027	2027年6月11日～ 7月3日	新しい発想によるアートの手作り手の支援を目的として、東京都美術館の場所性や展示空間だからこそ可能となる表現に挑むグループによる展覧会企画を公募し、審査により選出した3つのグループによる展覧会を開催します。
中谷ミチコ展（仮称）	2027年7月23日～ 10月9日	彫刻家、中谷ミチコ（1981－）は、独創的な表現による詩情にみちた作品で知られています。近年は優れた彫刻作品に贈られる中原悌二郎賞を最年少で受賞したほか、都内主要駅のパブリックアートを手掛けるなど、精力的に活動しています。本展では、新作を中心に《デコボコの舟》（2022年）をはじめとする代表作を紹介し、東京都美術館の空間ならではの展示を実現します。彫刻に真摯に向き合い続けてきた作家の繊細かつ豊かな表現を紹介すると共に、鑑賞者に新たな体験をもたらす機会を創出します。
レンブラントからモネ、ゴッホ ハマー美術館展	2027年9月11日～ 12月12日	アメリカ・ロサンゼルス・ハマー美術館が所蔵する、ルネサンスからポスト印象派までの名品を紹介する展覧会です。同館の創設者である実業家アーマンド・ハマーは、生涯にわたって美術作品の収集に情熱を傾けました。レンブラントやギュスターヴ・モロー、フィンセント・ファン・ゴッホをはじめ、ハマーが厳選して収集した作品からは、時代を越えて人の営みを見つめようとする美意識がうかがえます。本展では、芸術の持つ魅力を世界中の人々と分かち合おうとしたコレクターの審美眼にも着目し、作品とコレクターの両側面から、ハマー・コレクションの魅力に迫ります。

東京都美術館

事業名	会期	概要
新しい〈宇宙〉を見つける (仮称)	2027年11月18日～ 2028年1月9日	「公募展のふるさと」とも称される東京都美術館の歴史を背景にテーマを設定し、当館にさまざまに関連付けられる作家や作品を新たな切り口で紹介すると共に、創作活動を広く活性化することを目指す企画展を実施します。
ノルトライン=ヴェスト ファーレン美術館 パウル・クレー あいだの世界	2028年1月19日～ 4月9日	パウル・クレー (1879－1940) は、スイスのベルンに生まれた、20世紀を代表するドイツ人画家です。本展覧会は、ドイツ、デュッセルドルフの州立美術館(通称K20)が所蔵する約120点のクレー・コレクションを核に構成されています。人や植物など具象的なモチーフを描きつつも、幾何学的な形態を駆使した抽象的な画面構成も同時に内包するクレーの作品は、総じて曖昧です。絵画と音楽、線描と色彩といった、相対立する二極の「あいだの世界」にこそ、彼の居場所があると言えるでしょう。本展覧会は、この性格に注目しながら、クレーの造形について考えていきます。

※この内容は2026年10月9日現在のものです。事業内容は変更する場合がございます。

詳細は東京都美術館 広報担当までお問い合わせください。

お問い合わせ

東京都美術館

〒110-0007 台東区上野公園 8-36

TEL: 03-3823-6921 / WEB: <https://www.tobikan.jp>

【開館時間】9:30～17:30 (特別展・企画展開催中の金曜日は20:00まで)

【休館日】第1・第3月曜日 (祝日・振替休日の場合は開館、翌平日休館)、年末年始、整備休館
特別展・企画展は毎月曜日休室 (祝日・振替休日の場合は開室、翌平日休室)

※最新情報は、公式ウェブサイトでご確認ください。

東京都庭園美術館

※太枠は本プレスリリースの表紙に掲載している事業です。

事業名	会期	概要
ルネ・ラリック展	2027年7月3日～ 9月12日	アール・ヌーヴォー期にジュエリー・デザイナー、アール・デコ期にガラス工芸家として活躍したルネ・ラリック（1860－1945）の展覧会です。本展では、現代に通じる大量生産・消費社会の黎明期と重なる時代に、革新的なデザインを提示し続けた天才・ラリックの創作の根底を問い直します。当館のラリック・コレクションを一堂に会するほか、旧朝香宮邸に現存する作品も再検証し、当館独自の視点からその魅力に迫ります。
生誕130年 山名文夫 つかまえてはなさないデザイン	2027年10月9日～ 12月19日	大正から昭和にかけて活躍したデザイナー・山名文夫（1897－1980）。化粧品会社・資生堂のブランドイメージを築いた細く滑らかな線描で知られる一方、企業の広告やパッケージデザイン、雑誌のイラストレーション、後進の育成など幅広く活躍しました。本展では、山名の多彩な仕事を紹介すると共に、同時代に活躍したデザイナーたちとの交流にも焦点をあてます。当時のデザイン界の様相を紐解きながら、山名文夫の活動の全貌とその魅力を紹介します。
田中千代展	2028年1月22日～ 4月9日	日本のモダン・デザインを牽引したデザイナー、田中千代（1906－1999）。女性の洋装が一般的ではなかった昭和初期、彼女がデザインした洋服は人々を魅了したほか、洋裁学校を開設してその技術を広めました。また、香淳皇后の衣装デザインを長年務めたことでも知られています。本展は、田中千代デザインの洋服の数々を含む多様な仕事の紹介をとおして、日本における洋装の普及や洋装文化の歴史をたどります。

※この内容は2026年10月9日現在のものです。事業内容は変更する場合がございます。
詳細は東京都庭園美術館 広報担当までお問い合わせください。

お問い合わせ

東京都庭園美術館
〒108-0071 港区白金台5-21-9
TEL: 03-3443-0201 / WEB: <https://www.teien-art-museum.ne.jp>
【開館時間】10:00～18:00
【休館日】月曜日（祝日・振替休日の場合は開館、翌平日休館）、年末年始

※最新情報は、公式ウェブサイトでご確認ください。

東京都写真美術館

※太枠は本プレスリリースの表紙に掲載している事業です。

事業名	会期	概要
北野謙	2027年3月6日～ 6月6日	現代写真家・北野謙（1968－）の公立美術館初個展を開催します。北野は1990年代以降、国内外の写真展に参加し、写真でしかできない手法で人間の視覚を超えたヴィジョンを追求し、「個と社会」や「他者」との関わりについて考察する作品を発表してきました。日本、ハワイ、赤道直下、北極圏などで約半年間から1年間という極端に長いシャッター速度で太陽の軌跡を捉えたシリーズと代表作の展示によって活動の本質に迫ります。
石川直樹	2027年7月10日～ 9月20日	世界各地を旅し、人類の営みと自然の姿を見つめ続けてきた写真家・石川直樹（1977－）の活動を紹介する個展。近作を中心に、極地や高峰、島々、都市など多様なフィールドで撮影された写真をとおして、その歩みをたどります。2024年に写真家として世界で初めて8000m超全14座の完全登頂を達成し、その記録をつづった著書『最後の山』（2025年、新潮社）で第77回読売文学賞受賞。実践と冒険の軌跡を振り返りながら、世界を見つめる独自の視点と豊かな表現の広がりにも迫ります。
日本の新進作家 vol.24	2027年10月9日～ 2028年1月16日	「日本の新進作家」展は、写真・映像の可能性に挑戦する創造的精神を支援し、将来性のある作家を発掘することを目的に、2002年より継続して開催しています。この展覧会は、新たな表現の動向を紹介し、次代を担う作家たちの活動を広く発信する機会として位置付けられています。写真や映像に加え、インスタレーションなどの多様な表現手法を用い、過去の痕跡や記録、記憶の断片を手がかりに制作を行う5名の作家を紹介します。

東京都写真美術館

事業名	会期	概要
藤幡正樹	2027年10月9日～ 2028年1月16日	1980年代より国際的に活躍する藤幡正樹（1956－）の、2022年に発表したプロジェクト「BeHere/1942」を中心に、当館の映像・写真両部門が横断的に実施する展覧会です。ARや3D技術を用いて歴史的写真の撮影現場を再現し、現在と過去をつなぐ試みを紹介すると共に、「ドキュメンタリー写真」とは何かを問い直します。香港を題材とした同プロジェクトの制作過程も紹介し、最新のテクノロジーによって写真が記録する歴史や記憶を新たな視点から捉え直します。

※この内容は2026年10月9日現在のもので、事業内容は変更する場合がございます。

詳細は東京都写真美術館 広報担当までお問い合わせください。

お問い合わせ

東京都写真美術館

〒153-0062 目黒区三田1-13-3 恵比寿ガーデンプレイス内

TEL: 03-3280-0099 / WEB: <https://www.topmuseum.jp>

【開館時間】 10:00～18:00（木・金曜日は20:00まで）※入館は閉館時間の30分前まで

【休館日】 毎週月曜日（月曜日が祝休日の場合は開館し、翌平日休館）、年末年始等

※最新情報は、公式ウェブサイトでご確認ください。

東京都現代美術館

※太枠は本プレスリリースの表紙に掲載している事業です。

事業名	会期	概要
ハンス・ハーケ	2027年2月6日～ 5月16日	1960年代のニューヨークで展開されたコンセプチュアル・アートの中心人物として、この運動を、権力・経済・文化が複雑に絡み合うシステムへの批判的な問いかけへと導いたハンス・ハーケ（1936－、ドイツ、ケルン生まれ）のアジアにおける初の大規模回顧展。環境問題から政治的・企業的権力への追及まで、歴史的な作品やプロジェクトを幅広く紹介し、ハーケの実践とその現代における意義を包括的に提示します。
サンプライド財団との共催展	2027年2月6日～ 5月16日	サンプライド財団は、性的少数者（LGBTQ+）を含めた全ての人々の共存と平等の実現に貢献することをミッションに、作品收藏や展示活動等を行っています。同財団と連携する本展覧会は、ジェンダーとセクシュアリティに関する今日的な問いをテーマに、收藏作品、作家からの借用作品ならびに委嘱作品で構成する国際グループ展です。
MOTアニュアル2027	2027年2月20日～ 5月30日	MOTアニュアルは、多様な文化や表現が交差する東京を拠点に、現代美術の一側面を切り取り、問いや議論の契機を生むグループ展です。「MOTアニュアル2027」では、現代美術、舞台芸術、実験音楽を横断する若手アーティストたちの多彩な試みを紹介し、身体を通して過去と現在をつなぎ、感覚や体験に新たな地平を開きます。特に、個人や社会の記憶を呼応させるパフォーマンスに焦点を当てます。
ソ・ドホ展（仮称）	2027年6月19日～ 9月26日	ロンドンを拠点に国際的に活躍する韓国出身のアーティスト、ソ・ドホ（1962－）の国内では過去最大規模、首都圏の美術館では初となる個展です。本展では、半透明の布を用いて建築空間を原寸大に再現したインスタレーションをはじめ、ドローイングや映像作品など、多様な作品を通して、「ホーム」や「アイデンティティ」の変化し続けるあり方を探求してきたソ・ドホの世界に迫ります。

東京都現代美術館

事業名	会期	概要
ブライアン・イーノ展 (仮称)	2027年11月3日～ 2028年3月5日	半世紀以上にわたり音楽と視覚芸術の境界を拡張し、現代の創造的実践全般に多大な影響を与えてきたブライアン・イーノ（1948－）。本展は、イーノ本人の全面的な協力のもと、そのキャリアの全貌を検証する、世界初の美術館での本格的な回顧展となります。『アンビエント』に体现される思想を、音楽、光、映像、空間、生成的システムを貫く創造原理として捉え、複雑で本質的に予測不可能な世界を理解し、その絶え間ない流動のなかで生きるために、芸術に今、何ができるのかを探ります。
MOT Plus プロジェクト (仮称)	①2027年6月19日～ 9月26日 ②2027年6月19日～ 9月26日 ③2027年10月26日 ～11月23日	現代美術の幅広い様式や表現の新たな鑑賞方法を提示する継続的な枠組みとして、2025年度より新たに実施している事業 MOT Plus（プラス）。2027年度は企画展示室を用いて、①国内リサーチ成果展、②ハン・ネフケンス財団との共同によるアジアの映像作家の新作展示、③収蔵インスタレーション作品の特別展示という異なる3つの展示プロジェクトを無料で公開します。

※この内容は2026年10月9日現在のものです。事業内容は変更する場合がございます。
詳細は東京都現代美術館 広報担当までお問い合わせください。

お問い合わせ

東京都現代美術館
〒135-0022 江東区三好4-1-1
TEL: 03-5245-4111 (代表) / WEB: <https://www.mot-art-museum.jp>
【開館時間】10:00～18:00 (展示室入場は閉館の30分前まで)
【休館日】月曜日 (祝日の場合は翌平日)、展示替え期間、年末年始

※最新情報は、公式ウェブサイトでご確認ください。

東京文化会館

※太枠は本プレスリリースの表紙に掲載している事業です。

事業名	会期	概要
上野 de クラシック	2027年4月～ 2028年3月（年6回） 2027年4月23日 ほか	東京音楽コンクールの入賞者の支援を目的に開催するコンサートです。入賞者によるMC付きのソロ・リサイタルをお届けします。平日14時に開催予定です。 会場：旧東京音楽学校奏楽堂
第25回 東京音楽コンクール	第2次予選 2027年8月19日、 20日、21日 本選 2027年8月24日、 26日、28日	新人若手音楽家の発掘を目的としたコンクールです。2027年度は、弦楽、木管、声楽の3部門を対象に開催します。 本選ではオーケストラ伴奏による演奏審査を行い、各部門の第1位から第3位の入賞者などを選出し、表彰式を行います。 第2次予選（公開審査） 会場：浜離宮朝日ホール 本選（公開審査） 会場：東京芸術劇場 コンサートホール
東京音楽コンクール 優勝者 & 最高位入賞者コ ンサート	2028年1月10日	第25回東京音楽コンクール各部門優勝者・最高位入賞者の披露演奏会です。各演奏後の司会者によるインタビューをとおり、ソリストの人柄も紹介します。 ソリスト：弦楽部門、木管部門、声楽部門の 各優勝者または最高位入賞者 指揮：阪 哲朗 管弦楽：東京都交響楽団 会場：東京芸術劇場 コンサートホール
新進音楽家国際キャリア アップ支援	2028年2月17日～ 23日	ミラノ・ムジカ音楽祭（イタリア・ミラノ）と連携した作品を取り上げ、国際的アーティストと新進音楽家の交流を通じた研鑽の機会を提供します。 招聘アーティストによるマスタークラスや、東京音楽コンクール入賞者を起用し、招聘アーティストとのコラボレーションコンサートを実施します。 会場：浜離宮朝日ホール、イタリア文化会館

東京文化会館

事業名	会期	概要
音楽クリエイター育成プロジェクト成果発表 プレミエ・コンサート	2028年2月22日	東京文化会館がパリのIRCAM（フランス国立音響音楽研究所）と共同で邦人若手作曲家に委嘱を行うプロジェクトです。 2年にわたりIRCAMで複数回のクリエイションを行い、2027年度は北爪裕道がエレクトロニクスを使用して作曲した新作をパリと日本で発表します。 会場：浜離宮朝日ホール
国内外連携事業	年3回程度開催	国内外の文化施設と連携し、若手アーティストの活躍の場の提供などを行います。 会場：軽井沢大賀ホール ほか

※この内容は2026年10月9日現在のものです。事業内容は変更する場合がございます。
詳細は東京文化会館 広報担当までお問い合わせください。

お問い合わせ

東京文化会館
仮事務所：〒135-0064 江東区青海2-4-24 青海フロンティアビル8階
TEL：03-5579-6446 / WEB：<https://www.t-bunka.jp>
東京都において全面的な設備機器更新等の大規模改修工事を行うため、以下の期間休館しております。
【休館期間】令和8年5月7日～令和10年度中（予定）

※最新情報は、公式ウェブサイトでご確認ください。

東京芸術劇場

※太枠は本プレスリリースの表紙に掲載している事業です。

事業名	会期	概要
オルガン・ア・ラ・カル ト (オルガン・リサイタル、ナイトタイム・コンサート、ランチタイム・コンサート、オルガン講座)	通年	コンサートホールのシンボルである世界最大級、唯一の回転式パイプオルガンを活用し、楽器の特性を生かした選曲・内容で公演を実施します。リサイタル（約2時間）では、本格的なプログラムを。ナイトタイム（夜1時間）では、実力派オルガニストを。ランチタイム（昼どき45分）では、活躍めざましい若手オルガニストを中心に構成します。また、オルガン講座では、気軽に学べる機会を作りお客様の裾野を拡げるほか、昨年度からスタートしたオルガン・アカデミーでは、若い世代の人材育成とオルガン音楽の普及を目指します。

※この内容は2026年10月9日現在のものです。事業内容は変更する場合がございます。

詳細は東京芸術劇場 広報担当までお問い合わせください。

お問い合わせ

東京芸術劇場
〒171-0021 東京都豊島区西池袋1-8-1
TEL : 03-5391-2111 / WEB : <https://www.geigeki.jp/>
【開館時間】 9:00～22:00（休館日を除く）

※最新情報は、公式ウェブサイトでご確認ください。